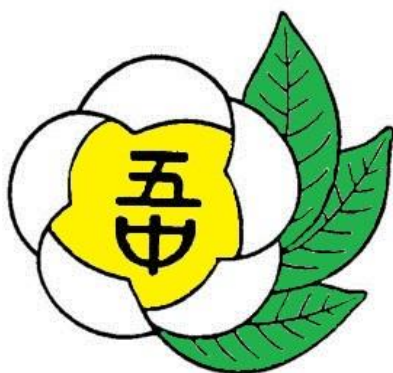



授業改善推進プラン

- 1 調査結果の内容別・観点別の分析
- 2 学力向上を図るための全体計画
全校共通で取り組む事項
- 3 教科等別の授業改善推進プラン



令和元年9月

武蔵村山市立第五中学校



令和元年度 学力向上を図るための全体計画

武蔵村山市立第五中学校

関係法規等 ○学習指導要領 ○武蔵村山市教育委員会教育目標及び基本方針 ○武蔵村山市立学校の学力向上施策	学校教育目標 ○正しく判断でき主体的に実行できる生徒 ○互いに助けあい思いやりのある生徒 ○身心をきたえ何事もやりとおす生徒	期待される生徒像 ○基礎・基本を定着させ、個性と能力を発揮できる生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○道徳心をもち、自他共に大切にしている生徒 ○地域社会と交流のできる生徒
--	--	---

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）
○各教科で、「五中校区スタンダード」「学習の手引き」等を活用し、意見発表、討論、学び合いなどを通して、言語活動の充実を図り、主体的に学習する意欲と態度を育てる。 ○授業を通して人権尊重教育の充実を図るとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を目指した年間指導計画、評価計画及び授業改善推進プランの充実に努める。

指導内容	中学校における「定着させたい学力」	重点
各教科	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」としての知識・技能。 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える力。 主体的に判断・行動し、問題を解決する資質や能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容の確実な定着 個に応じた指導の充実 家庭と連携した学習習慣の確立
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を自覚し、人としてより良く生きる力。 相手の立場に立って物事を考え、思いやりのある行動をする力。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他共に大切にしている心の育成を目指す。 道徳授業の指導方法を工夫・改善し、考え議論する道徳授業を行う。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する資質や能力。 創意工夫を生かした学習活動を展開する能力。 自分自身を知り、自己実現を図る態度や能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年共通のテーマ「生きる」のもと、人権に配慮し、横断的・総合的な学習、生徒の興味・関心に基づく学習などを行う。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事に挑戦する自主的、自立的な態度。 集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする社会的な資質。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員として自覚と責任をもたせる。 自主的・自治的な活動の充実を図り、自尊感情や集団への帰属意識を高める。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって学び続けようとする意欲。 自分に適した進路選択をしていく力。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な生き方を学び、自分に適した進路選択ができるような指導・援助を行う。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識をもち、授業規律を守れる態度。 人の話を真剣に聞き、改善していく力。 	<ul style="list-style-type: none"> ルール違反ゼロを目指し全体へ呼びかけ、決まりを守る大切さを意識させる。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力の定着を図るため、生徒の実態に応じた指導計画を作成し、個に応じた指導、グループ指導等の指導方法の研究を深め、授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業や、定期考査前の質問教室の充実を図る。 横断的な学習に力を入れ、その派生効果が生まれる指導の充実を図る。 年間35時間以上の道徳の授業時間の確保を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、意見交換、講師の招聘を含めた研修会を開く。 学力向上のために「学び合い学習」を効果的に取り入れ、その成果を研究していく。 人権と特別支援教育に関する理解をより一層深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の生徒の学習活動を明確な評価規準のもとに評価し、学習意欲の向上に結び付くように計画的かつ継続的に指導する。 生徒の実態に即し、よりの確実な道徳の評価を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、民生・児童委員や地域人材の活用を図る。 日頃から積極的な情報提供に努め、開かれた学校づくりを推進する。 生徒の体験活動やボランティア活動への参加を推進する。
授業改善推進のために全校共通で取り組む事項				
学習が遅れがちな生徒への支援	授業規律・学習ルールの確立	読書習慣の形成	学習意欲を高める方策と評価	家庭学習の習慣化
<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中に補習教室や定期考査前に質問教室を行う。また、個別の課題を与え基礎学力の定着を図る。 生徒同士で教え合う「学び合い」を取り入れた授業や学習会を行い、課題の解決を支援する環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> チャイム着席の徹底と授業の始めと終わりの挨拶をしっかりと行い、授業と休み時間のけじめを付ける。 「学習の手引き」を活用し、授業への取り組み方及び家庭学習への取り組み方から指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間に継続的に本を読ませることににより、読書の習慣を身に付けさせる。 推薦図書を紹介したり、読み聞かせ活動を行い生徒に興味をもたせる。 昼休みや夏休み中にも図書室を開放し、読書を行う環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた五中校区スタンダードを組み込んだ授業の実践をする。 生徒の実態に応じた指導、評価計画を作成し、生徒や保護者に分かりやすく説明する。 様々な学習形態を工夫して、主体的に学習する意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の家庭学習の定着を図るために、考査前や長期休業中に学習計画表を書かせる。 家庭学習時間調査や、三者面談で「学習の手引き」を活用しながら、家庭学習の意義や、進路を見通した学習の大切さを伝え、学習習慣の確立を図る。

令和元年度 教科等別授業改善推進プラン

武蔵村山市立第五中学校 第1学年

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫	(3)補充・発展的な指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・国語への関心・意欲・態度 ・基本的な「読み・書き」の能力 ・「話す・聞く」の能力 ・漢字や語句の知識 ・伝統的な言語文化に関する事項の指導 ・文章を読解し、内容の要旨を捉え、要約する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習、発表や話し合い、音読など、多様な取組から関心・意欲・態度を高める。 ・要点整理などによってジャンルごとの読み方や表現の仕方を理解させる。 ・プリント学習や漢字小テストなどの反復学習によって定着を図る。 ・図書室を利用した授業を増やし、読書の習慣が身に付くよう促していく。 ・日本の伝統文化に関する授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班単位での話し合いや学び合いなどを行い、思考力・判断力・表現力等をより向上させる。 ・読書紹介の機会を設け、読書の習慣を身に付けさせる。 ・長期休業明けに漢字等のテストを実施。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 ・学び合い学習を実践し、自分の考えをまとめて表現する力を身に付ける。 ・地図やグラフ、写真などの資料を読み取り、活用する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識や技能を定着させるため、学び合い学習や小テスト・質問教室により反復学習を行う。 ・ICT 機器などを用い、生徒の興味・関心を引き出す授業を行う。 ・新聞や資料などを活用し、地図やグラフの読み取る資料活用能力や、自分の考えをまとめて発表する表現力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの実施 ・定期考査前の質問教室の実施 ・宿題の提示 ・新聞を活用したり、学び合い学習を取り入れ、言語活動の充実を図る。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算、計算式の書き方から文字式の計算力、方程式を解く力 ・文章題の応用問題を解く力 ・ノートを正確に、丁寧に書く力、復習に生かせるようにポイントをわかりやすく書く力 ・興味をもって問題に取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に前時のまとめを確認する。 ・導入の段階で、本時の目標を提示し、学習に取り組ませる。 ・復習に生かせるようなノートのまとめ方を身に付けさせるよう指導する。また、机間指導を行い随時点検する。 ・文章題等は内容の要点を提示し、自分で式が立てられるように補助を行う。分からない問題は学び合い活動を通して他の生徒からも教えてもらえるような学習環境を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間80回の計算プリントの実施 ・小テストの実施 ・宿題の提示 ・学び合い学習の実施 ・定期考査後に間違い直しレポートの実施 ・定期考査前や夏季休業中に、補習の実施
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 ・グラフの作成及び読み取り課題を通して、思考力及び表現力を育てる。 ・実験で得られたデータの処理方法や観察のポイントをおさえることで、自然の事象をより科学的にとらえる能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に関する基本的な技能の習得に重点を置いた指導をする。 ・資料の読み取り、データのグラフ化など、各課題に取り組ませながら、一連の能力を習得させる。 ・発問や問題演習など、繰り返し学習する機会を増やす。 ・教室での授業においてもグループ学習を導入し、主体的・対話的な深い学びの実現を図る。 ・視聴覚教材などを活用して、ユニバーサルデザインの意識をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを計画的に実施し、授業前に前時の復習をすることで定着を図る。 ・予習・復習の範囲や学習方法を具体的に指導する。 ・定期考査前に、補習や質問教室を実施する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の英文を正しい発音で読むことができる。 ・基本的な単語、表現を積極的に使い、簡単なコミュニケーションをとることができる。 ・基本的な単語や文を用いて、自分の伝えたいことを文章で表現することができる。 ・外国の文化や習慣を学ぶことで外国への興味・関心を育成し、グローバル化する社会に積極的に参画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語彙、文構造が定着するように、ペアワーク、単語テスト、ワークシートを使った演習問題を行う。また、学習した単語や文に慣れ、実際に使うことができるようにするためにアクティビティなどを通して、繰り返し練習をする機会を作る。生徒が積極的に話す機会を確保できる授業を構成する。 ・正しい発音や基本的な表現を定着させるために、音読活動を多く取り入れる。 ・ICT 機器などを用いて写真や資料を見せながら、生徒の学習への意欲を高めることができるよう視覚的に工夫をする。 ・簡単な英語を使ってALT との会話練習、スピーチを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前にまとめや解説を行う。また授業以外に質問教室を行う。 ・小テストを計画的に実施し、授業前に前時の復習をすることで定着を図る。 ・単語の勉強や試験勉強の仕方を具体的に指導する。

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の楽しさを体験することで音楽への興味・関心を養い、楽しむ心情を育てる。 基礎・基本的な音楽知識や能力を育成し、表現する能力を養う。 多様な音楽に触れ、幅広く鑑賞する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心がわくように分かりやすい教材を使用する。 様々な種類の楽曲に対する自分の考えを、自分の言葉で表現する学習活動を積極的に行う。 題材ごとの課題に取り組み、互いに協力して表現の工夫を考え実践課題を行う力を育てる。 振り返りカード（自己評価表）を活用し、課題克服の能力を高める。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現の楽しさを知り、さらに自ら表現を工夫する態度を育成する。特に、表現方法を深く追求する心を育てる。 作品を鑑賞し、作者の意図を感じ取る能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術が苦手な生徒でも楽しく制作できる環境をつくるのが大切である。その中で、さらに次のポイントに重点を置く。 <ol style="list-style-type: none"> ①分かりやすい説明を常に心がけ、授業の振り返りをさせる。 ②生徒同士の意見交換や鑑賞会を行い、自分の考えを深めたり伝えたりすることで主体的な学びを促す。 ③「うまい、下手」によらない題材を設定する。 ④明確な目標をもたせ、基礎的な技能を身に付けさせる。
保健体育	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動に対して意欲的に取り組む態度を育成する。 各種目の基本的技能と知識を習得するとともに競技規則を理解する。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康・安全に関する理解を深め、自らの健康を適切に管理改善する資質や能力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 初級・中級・上級の教育を通して体育理論を充実させる。 各種目について授業規律・安全指導を徹底する。 安全に留意しながら運動に主体的に親しむ態度を育て、健康の保持増進と体力の向上を図る。 各競技の基本的技能を身に付けさせるために、学習カードや資料等を活用し、知識を定着させ、課題を解決するためのグループ活動の充実を図る。 自他の心身の発達や健康に関心を持ち、健康・安全の意義を理解し、日常生活における課題の解決に役立つ基礎的な知識を身に付けさせる。
技術家庭	<p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりに必要な技能・知識を習得し、安全に作業を行う。 共用の場で作業を行う際のマナーを身に付ける。 <p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面を第一に考え、自分で課題を解決し、ものづくりの楽しさや奥深さを感じられるような授業形態の工夫に努める。 各班に係で分担を定め、次の人が気持ちよく使用できるよう、片付け、清掃を行う。 全体が騒がしい場合は静かになるまで待つ、個別に騒がしい場合は個別指導を行う等、落ち着いた雰囲気の説明をする。 学習ガイダンスでは、学習の手引きを使って3年間の目標をもつことができるような指導をする。 学び合いの学習を通じて、自分から進んで課題を見付け、解決できる機会を増やす授業展開の工夫をする。 授業のねらいをより明確にするとともに、視聴覚教材をさらに充実するよう工夫していく。
道徳の時間	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的な考え方や行動ができる力を育成する。 「思いやり」の心の醸成を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に、心に響く身近な資料を用いて、道徳的な実践力・心情・判断力を高められるようにする。 担任による道徳授業と並行し、ローテーション授業を行うことで、全クラスで指導する形態を取り入れる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 「発見」をテーマとして、自己を見つめ、自己の生き方について考えるとともに、主体性を身に付けさせる。 「校外学習」「移動教室」の事前・事後学習を通し、課題設定能力、情報活用能力、コミュニケーション能力を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立ち、職業調べを通して、働くことの意義や自己の将来について考えさせる。 五中フェスティバルに参加し、地域の方々と実践的な体験学習を行い、交流を深める。 「校外学習」では生徒たちが主体的に活動できるよう、実行委員会を中心に企画運営に携わさせる。 「移動教室」の活動を通して「集団生活のマナーやルール」を学ばせるとともに「コミュニケーション能力」を高めさせる。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活のルールやマナー、集団の中での行動の仕方を身に付け、実行できる生徒を育てる。 思いやりや優しさをもった生徒を育てる。 自ら考え、自ら行動できる自立、自律した生徒を育てる。 「学び合い」活動などを通して、基本的な学力を身に付け、粘り強く取り組む生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動を通して次の事柄を身に付けさせる。 <ol style="list-style-type: none"> ①挨拶ができる。 ②提出物を出す。 ③話をよく聞き、自分の考えを伝える。 ④仕事に進んで取り組む。 ⑤人に嫌な思いをさせない。 ⑥善悪の判断。 ⑦言葉遣いを正しくする。 ⑧困っている時は助け合う。 ⑨時間・きまりを守る。 授業を大切にする態度を育て、粘り強く取り組み、学び合いながら学習に取り組む態度を養う。 委員や実行委員が中心となって行事を企画・運営し学年をリードできるよう指導・助言していく。 行事の中心となっている生徒に前向きに協力する姿勢を育む。

令和元年度 教科等別授業改善推進プラン

武蔵村山市立第五中学校 第2学年

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫	(3)補充・発展的な指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「書く」「話す・聞く」の中で「書く」力が不足している。 ・語彙力の不足を補うため、漢字や語句の定着を図る。 ・「話す・聞く」について、自分の考えや意見をまとめたり、分かりやすく伝えたりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章を丁寧に、声に出して読む。基本的な文章の読み取り方を指導する。 ・語彙を増やすために、読書活動の充実を図る。また授業中には、新出漢字の練習を毎單元ごとに実施するとともに小学校内容の漢字との定着のため週一度の漢字テストを実施する。 ・話し合いの活動を積極的に取り入れ、自分の意見や考えなどを伝え合う力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに新出漢字の練習用紙を提出させる。 ・授業時に問題演習などを多く行い、読解力を伸ばす。 ・単元ごとに「書く」作業や話し合い活動を取り入れる。 ・漢字検定の受検を促す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲・興味・関心をもちやすい課題を設定し自ら取り組む態度を育成する。 ・基礎的基本的な知識を精選し、確実に身に付けさせ、資料を読み取る力の基本を育成する。 ・東京都の学力調査から地図やグラフ、写真などを読み取る機会を増やし、資料を読み取る技能を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の段階で、本時の目標を提示し、学習に取り組ませる。 ・小テスト、ワークブックや定期考査を通して生徒の知識の定着の様子を確認し、補習等を行う。 ・地理・歴史を前期・後期に分けて座布団型に近づけること、ロッカーにおいて良い教材を増やすことにより教材忘れを減らし、授業への取組をしっかりとらせる。 ・授業の始めに前時のワークを行うことにより、復習の習慣化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや小テスト等を活用し、重要語句の定着を図る。 ・定期考査前に補習教室を行う。 ・東京都の学力調査から課題の記述を通して社会科の技能の充実を図る。 ・学び合い学習により言語活動の充実を図る。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・数学に関わる用語を理解し、基礎的な計算力を身に付けさせる。 ・方程式や関数を応用する力を育成する。 ・図形などの証明問題で、筋道を立てて考える力を育成する。 ・学び合い活動を多く取り入れ、他者の意見を聞き、自分の考えを説明できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の段階で、本時の目標を提示し、学習に取り組ませる。 ・短時間の計算練習により基礎学力の向上を図る。 ・復習に生かせるようなノートのとめ方を身に付けさせるよう指導する。 ・文章題等は内容の要点を提示し、自分で式が立てられるように補助を行う。分からない問題は学び合い活動を通して他の生徒からも教えてもらえるような学習環境を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中は1学期の基礎的な計算等の復習課題に取り組ませる。 ・2学期には数学検定の受検への参加を促す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な実験の技能や器具の使い方を知得する。 ・基礎、基本的な知識の定着。 ・実験、観察の結果を正しく処理し、考察を深め、レポートにまとめる活動を行い、思考力や表現力を養いながら、言語活動を充実させていく。 ・学習内容を自らの生活や自然現象と結び付け、科学的に捉える能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに、前時の確認問題を行うことで、復習をして既習事項を確認しながら、繰り返し指導していく。 ・グラフの作成方法を細かく指導し、読み取る練習を繰り返し行う。 ・個人の考えを書かせた上で話し合い活動等のグループ学習を行い、理解の深化を図る。 ・視聴覚教材などを活用して、より分かりやすい授業を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句や記号、計算などの小テスト、単元末テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・実験、観察で結果の予測や考察を個人・グループで話し合い、言語活動を通して思考力、表現力を養う。 ・試験前に補習教室を行う。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化についての知識・理解のポイントが低いので、基本的な文や単語を身に付けさせ、コミュニケーションをとろうとする態度につなげていく。 ・外国語理解の能力のポイントが低いので、まとまった文章を読んで、大まかな内容を読み取れるようにする。 ・外国語表現のポイントが低いので、英語の基本的な文の構造理解を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライティング活動・スピーチやインタビュー活動で、自分の考えを基本的な文や単語を使って表現する機会を多くもたせる。 ・音読や内容の読み取りをペアワーク等で工夫して行い英文読解に慣れさせるようにする。 ・既習語や文法を繰り返し練習し身に付けるため、副教材、自作ワークシートプリントを活用して取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の読み書きや基本文を書く家庭学習の習慣を付けさせ、授業に取り組むための基礎力を身に付けさせる。 ・自作ワークシートに自分の考えを表現する問題を必ず入れる。 ・長期休業中に補習または試験前に放課後補習教室を行う。

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の体験を通して音楽への興味・関心を高め、音楽を楽しむ心情を育てる。 音楽の知識や能力を育成し、創意工夫する能力を養う。 音楽の要素や構造を理解し幅広く鑑賞する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心をより高め、取り組み易い教材を使用する。 様々な楽曲に対する考えを、自分の言葉で表現し、発表し合うことで知識、言語表現の能力を養う。 題材ごとの課題に取り組み、互いに協力し合いながら表現の工夫を実践する力を育てる。 振り返りカード（自己評価表）を活用し、課題克服の能力を高める。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現を創意工夫し、さらに素材や用具を生かせる技能と表現方法を深く追求する心を育てる。 作品を鑑賞し、歴史的な背景などから、作者の意図を深く感じ取る能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作の楽しさを味わい、深く追求する心を育てることが大切である。その中で、次のポイントに重点をおく。 <ul style="list-style-type: none"> ①分かりやすい説明で作り方のポイントを明確にする。 ②毎時間今後の見通しをもって制作を行わせる。 ③良い作品にするためのアドバイスをする。 ④明確な目標をもたせる。 ⑤評価方法を正確に伝える。⑥魅力ある題材を設定する。
保健体育	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツが心身の発達に与える効果を理解する。 運動の合理的な実践を通して、運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進と技能・体力の向上を図る。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育を通して体育理論の充実・オリンピックの理念の理解を図る。 運動の合理的な実践を行うための精神的・身体的な準備を体得し、効率的に学習活動に取り組みできるようにする。 運動の楽しさや喜びを実感できるようにする。 チームや自己の課題や能力に適した課題解決方法を考えさせ、実行できるようにする。 自他の心身の健康や安全に関心をもち、健康で安全な生活を実践できるようにする。 健康や環境についての基礎的な知識を身に付けるとともに、傷害を防止する態度を育成する。
家庭	<p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業最初の内容の話聞く態度を育てる。 <p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な活動を通し、生活の自立に必要な基礎的な知識・技能を習得する。 実生活を振り返り、身近にある課題を見付け、家庭の中での自分の役割をふまえ、衣・食・住生活の自立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体が騒がしい場合は静かになるまで待つ、個別に騒がしい場合は個別指導を行う等、落ち着いた雰囲気の説明ができるようにする。 習熟度に応じて、放課後等に補習を行うが、意欲のあるものにその意思を確認して手続きを行う。 学んだことを、生活の中で実践できる能力を育成できる指導の工夫。 自らの生活経験の中で得た知識を交流し合う、学び合い学習を積極的に取り入れ、自分から進んで課題を見付け、解決する能力を付ける。 発問を簡単な内容から難易度の高いものへと段階的に工夫する。
道徳の時間	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 「思いやり」の心の醸成を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よりよく生きる」をテーマに、自らの生き方について見つめ直すことができる資料を広く収集し、編集していく。 話し合い活動を多く取り入れ、議論する道徳の実践を目指す。 担任による道徳授業と並行し、ローテーション授業を行うことで、全クラスで指導する形態を取り入れる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験などの体験活動を通して、生き方について考えさせ、自ら考え行動する力の育成を図る。 多くの人との交流によりコミュニケーション能力を育成する。 高齢者、ユニバーサルデザインに関する学習を通じて、差別や偏見をなくし、互いに認め合う心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「職場体験」を通して、職業についての理解を深めさせるとともに、自らの進路について考えさせる機会とする。 多くの人と交流する機会をもたせ、社会性や人間関係形成能力を育成する。 「下町遠足」に関わる学習活動で、事前の計画や調査を通して、情報収集能力を育成するとともに、それらを活用して班活動を行い学習を深める実践力を育む。 高齢者体験やユニバーサルデザインなどについて、実際の活動や現物を見て、実体験に基づく知識を身に付けさせる。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 自主的、自律的な行動ができ、周りに任される生徒を育てる。 基本的な生活のルールやマナーを守る生徒を育てる。 家庭学習の習慣を身に付け授業を大切にする生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動、係活動、班活動を活発にし、生徒たちが自主的、自律的に行動できるように指導していく。 時間に対する意識を高くもたせ、全員でルールを守り、仲間を大切にする生徒の育成に努める。 意欲的に学習に取り組みるように授業規律を確立し、個々の生徒に応じた学習指導をすすめる。

令和元年度 教科等別授業改善推進プラン

武蔵村山市立第五中学校 第3学年

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫	(3)補充・発展的な指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> • 語句の基礎的な読み方と意味を確認し、読解力を高める。 • 自分の考えを分かりやすくまとめ、表現する力を身に付ける。 • 語彙力を身に付け、漢字や語句を適切に使用できるようにする。 • 討論やプレゼンテーション、スピーチなどを通し、その場に応じた適切な言葉遣いができるようにする。 • 朝読書を通じ積極的に読書に取り組む姿勢を身に着ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 補助教材を利用して授業の充実を図り、応用力を身に付けさせる。 • 自分の考えを分かりやすく200字程度でまとめる練習を繰り返し行う。 • スピーチや集団討論の機会を増やす。相互評価することによってレベルアップを図る。 • 図書室で授業を行うなど、辞書や書籍を使う機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習が遅れがちな生徒のために、学び合いの学習を実施する。 • 補習を行い、問題演習をする。 • 作文コンクールに出品するなど、小論文等を書く機会を持つ。
社会	<ul style="list-style-type: none"> • 既習事項の学習を繰り返し、基礎的・基本的な知識を定着させ、理解力を深める。 • ニュースや時事問題を教材として取り入れ、現代社会の出来事に興味・関心をもって生活する態度を育成する。 • グラフや統計資料、地図など、様々な資料を読み取る力を活用し、現在起こっている出来事や社会的問題について、自分の意見をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 単元ごとの小テストやワークシートを活用し、3分野が関連するテーマを取り上げ、基礎的・基本的な知識を振り返られるようにする。 • 映像資料など視聴覚機器を用い、生徒が興味をもち、視覚的にも分かりやすい授業を展開する。 • 新聞記事やテレビのニュースを話題にし、時事問題を活用しながら、実生活と結び付けて考えさせる。 • 新聞記事や資料集などを用いて、内容を要約したり、自分の意見を述べられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ホームワークに定期的に取り組み、意味調べなどを繰り返しながら、基礎的な力を付けさせる。 • 定期考査前の補習、質問教室の実施。 • 定期考査後の復習を行い、基礎的・基本的な力を定着させる。 • 進路やまとめを目標にしながら復習課題に取り組ませる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的な計算力や公式、定理、既習事項の定着を図る。 • 用語等の語彙を豊かにし、題意を把握させ、読解力を身に付けさせる。 • 休み時間のうちに教科書やノートを準備させ、ノートをしっかりと、集中して授業に取り組む、学び合う姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> • できるだけ多くの教科書やワークの基本的な問題に取り組ませる。また、学び合いの時間を効果的に取り入れ、学習内容の定着を図る。 • 単元ごとに宿題を出し、家庭学習を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 考査前の質問教室、長期休業中の補習を実施し、学習の手助けを行う。 • 基礎力アップ講座を計画的に開設し、基礎的・応用的な問題の対応力を付ける。
理科	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な計算力を向上させる。 • 既習事項の学習を振り返り、基礎的・基本的な知識を定着させる。 • 実験で得られたデータの処理方法や観察のポイントをおさえることで、自然の事象をより科学的にとらえる能力を育てる。 • 言語活動を充実させ、生徒の主体的・対話的な学習を促す。 • 文章の読解力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算が必要な単元や化学式の暗記が必要な単元では、演習や小テストを繰り返し行い、定着を図る。 • 資料からのデータの読み取り、グラフの作成、グラフの読み取りなど、各課題に取り組ませながら、一連の技能を習得させる。 • 対話的な活動を充実させ表現力の向上を図る。その際に個人の考えを大切に、主体性をもってグループでの話し合いや発表をさせる。 • 演習問題を通して読解力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 章末や単元末にまとめプリントを配付し実践させ、基礎学力を定着させる。 • 質問教室や補習教室を実施し、個別対応を行い、学力の底上げをしていく。
英語	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えや思いを英語で発表できる生徒を育成する。 • 英語に対する苦手意識をもっている生徒が多いので、基本単語と基本文を身に付けさせ、授業の中で継続的に指導する。 • 「読む」「聞く」「話す」「書く」の4領域の力をバランスよく身に付けさせたい。また、コミュニケーション能力を高めさせ、英語を通して、日本と外国の文化や習慣の相違についても深く考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • グループ学習や活動を取り入れ、と生徒の個別的、主体的活動を充実させる。 • 授業でALTを活用し、単語や英語方言をより効果的に学習できるようにする。 • 小テスト等を実施し、基本的な学習の定着させる。 • 独自のワークシートを使用し基礎、基本を反復して学習させ定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 長期休業中は補習を、考査前は質問教室を実施し、生徒の進度に合わせた個別の学習の手助けを行う。 • スピーチテスト、インタビューテストに取り組ませ英語の表現能力向上を目指す。

教科等	(1)生徒の実態から特に育成したい能力や態度	(2)指導形態、指導過程及び指導方法等の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽への興味・関心を養い、味わう心情を育てる。 基礎的・基本的な能力を育てより創意工夫する能力を養う。 音楽の要素や構造を理解し、幅広く鑑賞する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心や技術をさらに高め、表現工夫を深められる教材を使用する。 様々な楽曲に対する考えを、自分の言葉で表現し発表し合うことで、互いに協力して表現の工夫を考え実践する力を育てる。 振り返りカード（自己評価表）を活用し、課題克服の能力を高める。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学年で学んだ知識や技能を生かし、創意工夫する技能を育成する。また、表現を深く追求する態度を育てる。 作品を鑑賞する際は、歴史的な背景などから、作者の意図を深く感じ取り、表現する能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作時間を意識し、計画的に制作できる能力を育てるために、次のポイントに重点をおく。 <ul style="list-style-type: none"> ①素材を活かすための工夫について、分かりやすい説明とともに多様な表現の見本を提示する。 ②毎時間今後の見通しをもって制作を行わせる。意見交換や発表会を通して自他の作品のよさを知り、自分の考えを深め主体的で対話的な学びを促す。 ③良い作品にするために何が必要なのか、自ら考えさせる。 ④評価方法を正確に伝える。
保健体育	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育などを通して文化としてのスポーツの意義を理解する。 個々の技能向上を目指して個人及び集団の目標を設定し、その解決のためグループでの学習の仕方を工夫する。 競技規則を守り安全に留意しながら、他者を尊重して活動する。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活や病気予防に関する知識や理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善していく資質や能力を身に付け実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育理論指導の充実を図る。 オリンピック・パラリンピック学習読本を活用して、オリンピック・パラリンピックの歴史や理念の理解を図る。 種目ごとのルールや特性を理解させ、その特性に応じた学習活動や補助活動を取り入れる。 学習カードの活用や、個人で習得してきた知識や技能を活かして、記録や技能の向上を目指した活動をする。 グループ活動の中で課題発見、解決につなげていく。 計測や試合の運営を仲間と協力して主体的に取り組みさせる。 場の工夫、ルールの工夫を行い、生徒全員が積極的に取り組むことのできる環境をつくる。 健康な生活と病気についての理解を深め、予防のための具体的な手だてを学び、日常生活で実践できるようにする。 具体的な内容の教材・資料を使用する。PCや電子黒板等のICTを利用して視覚的に捉え、考えさせる。
家庭	<p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隔週1時間ごとの目標を設定し、しっかり取り組む能力を育む。 <p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を振り返り、自分と家族や家庭生活との関わりについて考え、よりよい家庭生活を目指す態度を養う。 身近にある課題を見付け、家庭の中での自分の役割をひまえ、衣・食・住生活の自立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 隔週1時間の授業で、自ら課題を確認し達成できるよう、課題、見通しの確認などの工夫に努める。 実習を多く取り入れ、安全面に配慮しながら意欲的に、最後まで取り組むことができる展開の工夫をする。 生活の中で興味・関心をもち活用できる教材の工夫・開発に取り組む。 自らの生活経験に基づいてお互いに教え合う、学び合いの機会を増やす工夫をする。 授業内容を振り返り、実生活に結び付け、自分のできることを確認し、実行できるようにしていく。
道徳の時間	<ul style="list-style-type: none"> 相互の考えを、生活の場で自律的に判断できる力を育成する。 社会人として道徳的な考え方や行動を実践する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任による道徳授業と学年の教員によるローテーション授業とを織り交ぜながら、考え、議論するような指導を行う。 生徒が自己の生き方についての考えを深めることができる身近な読み物資料を、幅広く収集し、活用していく。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に対して意欲的に取り組む態度を身に付けさせる。 様々な情報や資料を的確に取捨選択し、活用する能力を身に付け、社会について関心をもたせ、自己の生き方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習を通じて自己の進路に対して真剣に考える態度・実践力を育成する。 修学旅行の事前、事後学習などを通して、様々な情報や資料を活用し表現する能力を養う。 地域の人たちとの交流を通して、社会人としての資質を育成するとともに、自己の生き方について考えさせる。 障がい者についての理解を深め、共に生きる社会を築いていく資質や態度を育む。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・自律的な態度を確立し、望ましい人間関係を育成する。 行事や係・委員会等を通し、責任感と遂行力を育成する。 思いやりの心をもった学年、学級を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動や班活動などを行う中でそれぞれの活動に責任をもたせ、生徒の自主的、自律的な活動を活発にする。 リーダーを中心として学校行事や学年の取組に向けて生徒が自主的、自律的に企画、運営し、生徒自身で割りあげられるよう指導、助言する。 思いやりの心を育て、いじめや不登校を未然に防止する。